

吉本みづる県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

地域活性化の思いを県政へ

富津市
市集
特

新たに県監査委員に就任

あります。常に県民の側に立つて発言する吉本県議にふさわしい新たな職責を担うことになりました。

12月県議会一般質問から

県議4期目も半ばを迎え、これまでに議会運営委員長を務めるなど、議会活動の中心的な役割を果たしてきた富津市選出の吉本充(よしもと・みつる)県議は、昨年12月定例会でも一般質問に登壇し、東京湾漁業の振興など地域のさまざまな課題を取り上げ、地元の代表として地域活性化に向けた熱い思いを県政に訴えました。

また、吉本県議は、その公正な人柄を評価され、昨年7月から県の監査委員に就任しました。県行政から独立した機関としての監査委員は、地方自治法に基づいて設置され、公正不偏の立場を守り、知事やその他の執行機関の支配を受けず、県や県の外郭団体の予算執行について厳しく監査する立場にあります。常に県民の側に立つて発言する吉本県議にふさわしい新たな職責を担うことになりました。



12月議会で東京湾の漁業振興を力説する吉本充県議

漁業調査船の建造で県へ提言！

漁業者の希望の新船を

吉本議員 漁業者が現在の東京湾で、効率的な操業をするためには、水温・塩分等の海洋データや青潮の発生状況など、海洋環境の情報が必要不可欠となっています。

また、東京湾は物流の大動脈でもあり、タンカーなど大型の船舶が行き交うことから、漁業は安全に万全の注意を払いながら操業する必要があります。

県では、船形漁港を母港とする56トンの漁業操業安全指導船「ふさなみ」と、富津漁港を母港とする12トンの東京湾漁場調査船「わかふさ」の2隻により、東京湾の漁業操業の安全指導と漁場環境調査を実施してきたところですが、両船とも老朽化が著しく、各種機能を高めた新船の建造が強く要望されているところであります。

このため、県では平成24年度と25年度の2カ年事業で両船の機能を併せ持ち、さらに油流出事故発生時の初動対応など多目的に対応できる、新しい調査指導船の建造に着手していくと聞いています。

そこで、質問の第1点として、新船の建造工事の入札が不調だったとのことですが、来年度までに建造する計画に変更は生じないのか。また、必要な機能を備えることはできるのか。

農林水産部長 新たに建造する調査指導船は、震災後の造船需要の高まりを受け、建造費が上昇し、入札が不調だったことから、経費の見直しを行い、今後、再入札に向けた手続きを進め、計画通り25年度の完成を予定しております。

また、新船には現在の「ふさなみ」と「わかふさ」の2隻で行ってきた業務を集約化し、今後、充実・強化が求められる貧酸素水塊などの調査研究に必要な機能も備えてまいります。

最新式の機器類を装備

吉本議員 新たに建造する調査指導船は、今後、東京湾の漁場環境調査や操業安全指導等にとのような役割を果たしていくのか。

農林水産部長 新船では、最新式の観測機器類を装備し、水質・プランクトン調査やカレイなど魚介類に影響を及ぼす貧酸素水塊の規模化等に対応したきめ細かい調査を実施してまいります。

また、浦賀水道など多くの船舶が行き交う海域における操業の安全を確保するために、引き続き、無線による大型船舶の航行情報の提供や注意喚起を行なうとともに、ノリ養殖に大きな被害を与える油流出事故の初動対応等の役割も担うこととしています。

県では、厳しさが増す漁業環境に対応するため、今後、新船を活用したこれら

●県政と富津市に関するご相談・ご要望をお気軽にお寄せください。

吉本 充 県議事務所

〒293-0006 富津市下飯野1114-2

TEL.0439-80-1885

の取り組みを通じ、東京湾漁業振興に努めてまいります。

要望 再入札し、計画通り来年度で竣工との答弁でしたが、これから10年、20年と使う船ですから、不調になった原因をしっかりと精査し、足りないところは補正予算で付けるといった形で、今後の東京湾の漁業振興のため、知事さんからもしっかりと行っていただき、漁業従事者の皆さんの希望になるような新しい船ができることを期待してまいります。

原木シイタケの出荷制限解除を！



放射性物質の基準値超えで

吉本議員 次に原木シイタケの出荷制限について伺います。

わが富津市は、シイタケ生産が盛んで、約30人の生産者が、丹精込めてシイタケを生産しています。そのような中で、今月11月14日に県が公表したシイタケの放射性物質検査において、富津市産原木シイタケが国の基準値を上回りました。

この結果、富津市全域で原木シイタケの出荷が制限されることになりました。市内の生産者にとっては、寝耳に水の話です。私は、放射性物質検査の結果、国の基準値を超えた原木シイタケの生産者が、出荷を止

められるのは仕方ないことだと思いますが、市内の基準値以下の生産者まで出荷を止められている現状については、納得ができません。

一刻も早く出荷制限が解除され、シイタケの出荷が再開されることを生産者は強く望んでいるものと思います。

原木シイタケについて、国から示されている出荷制限解除の条件は何か。県はどのように対応しているのか。

農林水産部長 国は、出荷制限解除の基本的な考え方として、特に原木シイタケについては、基準値を超える汚染の原因となる要因



収穫されても土中に埋められる富津産シイタケ

が、管理等により取り除かれていたことが必要としています。

県では、基準値を超えるシイタケが発生する主たる原因が原木にあるため、この指標値を超える原木の廃棄を指導しております。

現在、栽培環境が原木に

富津温水プール

来年度中の再開を約束

吉本議員 富津公園内の屋内温水プールは、レジャー需要や健康増進ニーズにも応えることができ、通年で楽しめる施設として、富津市をはじめ君津、木更津市、安房地域の方々も来館し、年間5万人以上に利用されている、なくてはならない施設です。

しかしながら、この温水プールは、屋根の鉄骨フレームの重要部材に腐食による劣化が見つかり、平成22年末から休館となっていました。その後、改修に向けた実施設計を行い、この11月に大規模改修建築工事の一般競争入札の公告が行なわれたと聞いていますが、屋内温水プールの再開へ向けた今後の見通しはどうか。

森田知事 富津公園の温水プールは、設置以来20年以上にわたり、レジャーや健康増進の拠点として、地

後、その経過を踏まえながら、市町村と連携して原木や栽培工程を適切に管理する仕組みを作ってまいります。

こうした取り組みをもとに、早期に出荷制限が解除されるよう、国と協議してまいります。

富津公園温水プールについて大変向きの答弁ありがとうございます。25年度中には完成することではあります。が、地域の皆さんからは、いつ再開できるのかとの声が上がっていたところですので、是非とも1日も早い再開を希望します。

与える影響を調査研究しており、今

新品種「ちばの輝き」が高評価

吉本議員 県では、海水の高水温化の影響を受けにくい新しいノリ養殖品種である「ちばの輝き」を開発し、漁業者への配布を開始したと聞いています。

ノリ養殖業者のニーズは多種多様であり、これらに的確に対応していくことが、今後のノリ養殖業の振興に重要と考えます。そこで、ノリの新

養殖品種「ちばの輝き」の成果と、その後の品種改良の取り組みはどうか。

農林水産部長 ノリの育成には、秋の水温が順調に低下することが必要ですが、近年、水温が高い傾向にあり、年内のノリ生産量が減少しているため、県では秋口の高い水温のもとでも、成長に優れ、収量が多い新品種「ちばの輝き」を、平成21年度に開発しました。

その後、平成23年度から本格的に普及を始め、年内に使用するノリ種苗の約1割に当たる4万枚を配布した結果、成長や味が良いとの高い評価を得て、本年度は配布枚数が前年度比で3割増加するなど、普及が進んでおります。

また、漁業者の多様なニ

ーズを踏まえ、高級感のある、色合いがより黒い品種などの開発を進めてまいります。

貧酸素水塊

試験研究進め軽減対策を

吉本議員 近年、貧酸素水塊により、カレイやトリガイ等の東京湾の魚介類は、大きな影響を受けています。漁場環境の影響を回避し、安定した生産が行われるためには、現場ニーズに合った試験研究の推進が必要不可欠だと思います。

そこで、貧酸素水塊の影響が避けられない中、漁業への軽減対策に向けた試験研究の取り組みが必要と思うがどうか。

農林水産部長 貧酸素水塊は、春から秋にかけて東京湾の底層に発生し、青潮の原因となつて魚介類をへい死させるなど、漁業に大きな影響を与えています。

そこで、県では、貧酸素水塊の分布予測システムを開発し、漁業者が操業場所を決める際の参考となる情報提供

県では、こうした取り組みにより、今後ともノリ養殖の一層の振興を図ってまいります。



本会議場で森田知事に語りかける吉本県議

警察業務の災害対策をたたく



宮城県の被災地で惨状を視察する吉本県議

宮城県から感謝の言葉

吉本議員 次に災害対策について伺います。先の東日本大震災は、東北地方を襲い未曾有の被害をもたらしました。私も昨春秋、宮城県へ赴き、被災状況を調査してきました。その際、宮城県警察の幹部から「千葉県警をはじめ全国の警察からご支援いただき、ありがとうございました」と感謝されました。一県民として、千葉県警を誇りに思うとともに、改めて敬意を表したいと思います。

そこで伺いますが、東日本大震災に伴い、被災3県へどれくらい警察官を派遣したのか。また、どのような活動をしたのか。

警察本部長 10月末現在、千葉県警察職員延べ約5万3千人を東北被災3県に派遣しているところです。

その活動は、発生直後の救出活動、避難誘導や行方不明者の捜索、交通の確保に当たったほか、検視や身元確認、被災者が安心・安全に暮らせるための被災者

への声かけや困りごと相談、安全パトロール、交通対策等被災者の求めに応じた活動を行なっていました。

岩手、宮城への派遣については、本年2月をもって終了したところですが、福島県への派遣は、現在も継続しています。

検討委の見直し内容

吉本議員 東日本大震災の反省・教訓を踏まえて設置した、災害対策検討委員会において、各種災害対策の見直しを図っていると聞いていますが、どのような見直しなのか。

警察本部長 県警では、東日本大震災クラスの地震が県内で発生した場合にも、迅速・的確に災害対応業務を推進できるよう、昨年12月に警察本部長を長とする「千葉県警察災害対策検討委員会」を設置し、災害に係る危機管理体制の再点検と再構築に当たってきたところです。

主な見直し項目としては○首都直下型地震や南海トラフ等の巨大地震による津波などの最大規模の被害想定にも対応できる災害警備本部体制の確立。

○勤務時間外の発災に対応するための早期応招者の指定。

○大規模災害発生時にも継続すべき非常時優先業務を特定した業務継続計画の策定。

継続しており、警戒区域周辺における検問や警戒活動に従事しております。

今後も、被災県からの要望に応じ、可能な範囲内で最大限の警察官を派遣し、被災県への援助を行なってもらいたいと考えています。

装備品は十分か

吉本議員 大規模災害発生時に警察活動する上で、各種装備品や備蓄食糧などが必要になると思うが、十

分は整備したのか。

警察本部長 県警においては、これまでも災害対策に係る装備品等の整備を図ってきたところです。

○災害対策を円滑に推進するための各種マニュアルの整備。などの見直しを図ってきたところです。

○災害対策を円滑に推進するための各種マニュアルの整備。などの見直しを図ってきたところです。

つてきたほか、災害発生時の水・食糧の確保や優先給油について、民間企業の協力を得て警察活動を遂行してきたところです。

平成24年度におきまして、警察施設の耐震改修や津波対策に必要な救命浮き輪、救命胴衣等の救出救助資機材、備蓄品として必要な非常用保存食・水などを整備

母子寡婦福祉資金の返済

吉本議員 母子寡婦福祉資金の貸付は、母子家庭などの経済的自立の助成等を図るため、母子家庭や寡婦の方を対象に実施されています。

しかし、貸付金ですから、償還されたお金は、次にこの資金を必要とする方への原資となるわけで、期限内の返済を促していくことは県の重要な責務です。

県は、母子寡婦福祉資金に係る収入未済の解消対策にどのように取り組んでいるのか。特に、返済能力があるにも関わらず、返済に応じないケースにどのように取り組んでいるのか。

健康福祉部長 県では、収入未済の解消対策として、毎年、滞納者本人への督促催告書の発送、呼び出し通知を行なうとともに、保証

しましたが、まだ十分とは言えない状況にあることから、来年度予算の要求に当たりましては、

○被災により県本部や警察署が使用できなくなった場合に必要ない代替警備本部の設置運営に係る装備資機材等の整備拡充

○県本部庁舎の非常用電源の確保

人に対して本人への償還指導を依頼し、また保証人自身に対しても連帯債務の履行請求を行なっています。

また、収入未済を防止するため、口座振替の実施、分納の承認等を行い、返済しやすい環境の整備に努めています。

違約金の適正化に努力

吉本議員 違約金について、国に対して制度の改善を要望しているのか。また、違約金の減免は、どのようなケースの場合に行なわれているのか。

健康福祉部長 違約金の利率については、制度創設時と比較して市場金利が低下している経済情勢に鑑み、率の引き下げが行なわれるよう、他県と連携して国に要望しているところです。

また、違約金の減免については、借主等が災害、盗難、負傷によるときや、生活保護の適用を受けている

○検視・身元確認用装備資機材の整備

などを財政局に要望しているところです。

現在も福島県への派遣を継続しており、こういった環境が想像できませんが、おそらく過酷な任務であろうと思います。健康等の面にもご配慮いただよう要望します。

母子寡婦福祉資金は、経済的に弱い立場にある母子家庭や寡婦の方への貸付ですから、違約金をなくすることができないか、国へ働きかけるよう要望します。

とき、失業や雇用契約の変更により生活が困難になったときなどに、借主等からの申請を受けて調査し、やむを得ない場合に不徴収決定をしているところです。

今後とも、収入未済の解消に努めるとともに、違約金の取り扱いについて適正に実施してまいります。

将来見据えたキャリア教育を提言

普通科の総合学科への改編

吉本議員 高等学校には、普通科や専門学科のほかに、自らの興味、関心や進路希望に応じて、主体的にさまざまな科目を選択できる総合学科があります。

本県では、これまで専門学科を改編し、4校に設置してきましたが、昨年、本県において開催された総合学科の全国大会では、普通科から総合学科に改編した事例も紹介されました。

文教常任委員会では過日、平成16年度に普通科から総合学科へ改編した島根県の三刀屋(みとや)高校を視察してきました。高校生は、いずれは社会に出て行くわけですから、働く意欲を育てるキャリア教育を、

高校の段階でもし、つまり取り組んでいくことが重要だと感じました。

県立高校の普通科から、総合学科への改編について、どう考えているのか。



岐阜国体で同僚議員と声援を送る吉本県議

教育長 総合学科では、自らの進路希望等に応じて、主体的にさまざまな科目の学習ができることから、生徒がいきいきと学び、学習意欲の向上につながるなどの効果が期待されます。

このため、本年3月に策定した「県立学校改革推進プラン」では、こうした総合学科のメリットを普通科の改編に活用し、普通科からの改編による総合学科も設置することとしています。



自席から立ち上がり再質問する吉本県議

12月議会一般質問に登壇

設置校について

な生徒の進路希望に

展開する

とし、現

在具体的な

設置校につ

いて検討を進めているところ

です。

求められているのは、

将来のわが県

わが国を担っていく人材で

困難に立ち向かう人材を

吉本議員 大学進学だけでなく、将来の職業選択を見据えたキャリア教育により力を入れるべきと思うがどうか。

教育長 キャリア教育では、目先の進学や就職のみを目的とするのではなく、生涯を通じて自らの夢や理想を思い描き、社会での役割を自覚して行動できるよう、学校教育活動全体を通じて支援することが重要で

す。

特に、高等学校段階では、

自分の将来を展望する時期であることから、生徒の実態に

態に

特別活動など関連付けながら、就業体験等を通して働くことの大切さを学ぶ活動を行なっています。

県教育委員会では、今後

も関係機関や事業所等との連携を密にしながら、引き続き夢の実現に向けたキャリア教育に取り組み、どんな困難にも立ち向かう底力のある人材育成を目指してまいります。

吉本議員 地方港湾として重要な役割を果たしている浜金谷港の機能を維持するため、県はどのように取り組んでいくのか。

森田知事 浜金谷港は、南房総の観光の窓口として、また砂利や砂の積出港として地域経済の活性化に寄与する重要な港であります。

昭和53年7月に千葉県が港湾管理者になって以降、利用船舶の大型化に対応し、物揚げ場の改良、臨港道路の整備等を行なってきたところであり、近年は、港湾としての機能を維持するた

あります。そういった意味で、正しいキャリア教育を人生の生きる目的意識まで掘り下げ、高等学校づくりの中に生かしていただきたい。

浜金谷港の整備を要望

吉本議員 地方港湾として重要な役割を果たしている浜金谷港の機能を維持するため、県はどのように取り組んでいくのか。

森田知事 浜金谷港は、南房総の観光の窓口として、また砂利や砂の積出港として地域経済の活性化に寄与する重要な港であります。

昭和53年7月に千葉県が港湾管理者になって以降、利用船舶の大型化に対応し、物揚げ場の改良、臨港道路の整備等を行なってきたところであり、近年は、港湾としての機能を維持するた

あります。そういった意味で、正しいキャリア教育を人生の生きる目的意識まで掘り下げ、高等学校づくりの中に生かしていただきたい。

吉本議員 地方港湾として重要な役割を果たしている浜金谷港の機能を維持するため、県はどのように取り組んでいくのか。

森田知事 浜金谷港は、南房総の観光の窓口として、また砂利や砂の積出港として地域経済の活性化に寄与する重要な港であります。

昭和53年7月に千葉県が港湾管理者になって以降、利用船舶の大型化に対応し、物揚げ場の改良、臨港道路の整備等を行なってきたところであり、近年は、港湾としての機能を維持するた

あります。そういった意味で、正しいキャリア教育を人生の生きる目的意識まで掘り下げ、高等学校づくりの中に生かしていただきたい。

内房線の防風柵が完成

吉本県議が、平成23年12月県議会の一般質問で取り上げた内房線の強風対策に基づいて、JR東日本千葉支社は昨年3月、内房線佐貫町上総湊駅間の防風柵が完成したことを記者発表しました。

同区間は、強風のたびに運転中止や徐行運転で、輸送障害がたびたび発生し、吉本県議は県議会での問題を

取り上げ、防風柵を設置するなどJRに

対し改善を図るよう県当局に強く求めてきました。

この結果、設置された防風柵は佐貫町上総湊駅間の最も強



完成した内房線の防風柵

吉本 充県議プロフィール

略歴

- 昭和31年12月 富津市に生まれる
- 昭和54年3月 國學院大學卒業
- 昭和54年4月 富津市役所に奉職
- 平成8年4月 富津市議会議員に初当選
- 平成11年4月 千葉県議会議員に当選
- 平成15年4月 〃 再選
- 平成19年4月 〃 3選
- 平成23年4月 〃 4選
- 警察企業常任委員長
- 文教常任委員長

現職

- 県議会 文教常任委員会委員
- 〃 土石採取対策審議会委員
- 県監査委員
- 自民党県連 財務委員会委員
- 富津市スポーツ少年団本部長
- 天羽剣志会代表
- 富津市文化協会会長